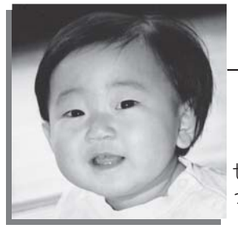
# ハッピーバースデー
## 1歳になりま～す

**荒木 大智（だいち）くん**
北原町
平成20年1月7日生
父・隆文さん　母・真由美さん
だいちくん大好き♡
元気な男の子に育ってね!!

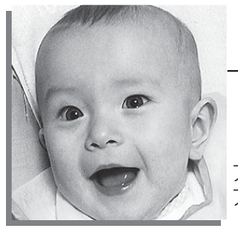


**猪口 聖菜（せな）ちゃん**
五和町城河原二丁目
平成20年1月2日生
父・健之さん　母・多恵さん
せなスマイルにみんな元気をもらっています。お姉ちゃん大好き♡

**谷山 愛佳（まなか）ちゃん**
新和町大多尾
平成20年1月22日生
父・幸一さん　母・由美子さん
つかまり立ちが大好きです。
早く歩けるようになりたいな！

**福田 琉喜（るき）くん**
五和町二江
平成20年1月28日生
父・敦さん　母・幸子さん
笑顔＆食べっぷり最高!!
みんな大好きだよ♡

**宮本 秀斗（ひでと）くん**
五和町御領
平成20年1月7日生
父・透さん　母・久美さん
わが家のアイドル!! みんなかわいがってくれてありがとう♡



**岩田 アイリ ちゃん**
城下町
平成20年1月23日生
母・江身子さん
アーちゃん、いつもありがとう♡
アイリはわが家の宝物です♡

**2月で満1歳になるお子さんを募集します！**
●**応募期限＝1月13日㈫まで（必着）。**
●**応募方法＝**写真裏にお子さんの住所、氏名（ふりがな）、生年月日、性別、電話番号、コメント（30字以内）、保護者名（父・母）を記入し、〒863-8631（住所記載不要）天草市役所秘書課へ郵送または持参してください。なお、写真はお子さんが大きく、鮮明に写っているものをお願いします。また、写真の掲載は6人まで（応募者多数の場合は抽選）とし、応募写真は返却しません。

# 病院局だより
## 新和病院

新和病院
院長　濱崎　豊

新和病院は、本渡地区から主要地方道・本渡牛深線を南方へ約12㎞、新和町の福祉ゾーンと呼ばれる「日だまりの里」内にあります。

このゾーンには、当院と併設の保健センターや、特別養護老人ホーム、デイサービスセンターなどもあり、すべての施設が一体となって、地域住民の皆さんの医療や介護、検診などを行っています。

私は、今から22年前の昭和62年に赴任しましたが、当時の新和病院は施設の老朽化が進んでおり、経営も赤字続きで、非常に厳しい状態にありました。しかし、医師2人を先頭に、職員みんなが力を合わせて努力したことで、5年ほどで経営を立て直すことができました。

その後、平成9年に現在地へ新築移転し、保健・福祉と連携した療養型病院として開院しました。現在、内科医2人、小児科医1人と、週に1回、整形外科の医師に来ていただき、診療をしていますが、当院でも医師が不足している状態です。その一方で、入院病床は常に満床状態が続き、病床利用率は95％以上となっています。

これまで、何人もの重症患者さんを診断し、本渡地区の病院へ送りました。急性心筋梗塞の患者さんが、搬送中の救急車の中で心臓が停止してしまったことがありましたが、必死に緊急蘇生を施しながら送ったところ、無事元気になって帰って来られたときは、大変うれしく思いました。

微力ではありますが、1人でも2人でも、私たちの治療や看護により、患者さんが元気になってくださればと思っています。



# 煌（きら）めく人たち

## 「御所浦ならではの触れ合いの場を提供したい」

**山口 陽子** さん（御所浦町牧島・24歳）

御所浦町にある通信制・単位制の勇志国際高校で、イルカの飼育員として勤務。同校では、さまざまな悩みなどを持った生徒たちに癒しの場を提供しようと、平成18年2月からイルカを飼育している。

山口県宇部市出身。小学校5年生のとき、福岡市内の水族館へ行き、「きれいな瞳にひかれて」イルカ好きに。その後、親に頼んで何度も水族館へ連れて行ってもらううちに、「イルカと触れ合える仕事がしたい」と思うようになった。

高校卒業後は日本文学科のある大学に進学。しかし、夢をあきらめきれずに中退し、イルカのトレーナー専攻のある専門学校へ進んだ。その後、「飼育しながらイルカの良さを伝えられる、自分にうってつけの職場」と平成18年4月、勇志国際高校に就職した。

同校では、昨年3月に就職した飼育員と2人で、イルカ「カイくん」の健康管理や運動、しつけ、1日5回のえさやりのほか、生徒たちにカイくんと触れ合わせたり、イルカに関する話をするなど、充実した毎日を送る。「カイとの触れ合いに喜ぶ生徒たちの姿を見るとやりがいを感じます。また、えさを与えられるようになるなど生徒たちの成長を見るのも楽しみ」と笑顔で話す。

「今後はさらに勉強を重ね、2人で協力しながらカイを立派に育てたい。そして、カイを通して生徒たちに本校をより一層、好きになってもらえれば」。そのためにも、「大自然と人の優しさあふれる御所浦でしかできない、イルカと生徒たちの触れ合いの場をつくり提供していきたい」。優しい瞳から強い決意を感じた。

地域づくりコーナー

# 人が動く　地域が動く　天草が動く

## ″かっぱ″を生かしたまちづくり

**栖本まちづくり協議会（松本和芳会長）**

栖本町の中心部を流れ、飲用水や農業用水の源となっている河内川。栖本地区には、この川に″かっぱ″がいたとされる言い伝えが残っています。

栖本まちづくり協議会では、この″かっぱ″を生かしたまちづくりを展開しようと、各種の取り組みを実施。その一つが、日本一の「親子かっぱのモニュメント」の建設。まちのシンボルにしようと、町内の全世帯に寄付を呼びかけ平成19年11月に建立しました。

また、″人生楽しくおおらかに、何があってもへのかっぱ″をキャッチフレーズに、陶器製の「へのかっぱストラップ」を同年8月に販売。地元有志が一つ一つていねいに手作りで製作しており、大好評を得ています。

その後、同20年4月にへのかっぱ第2弾となる「お守り」を、8月に第3弾・和菓子「へのかっぱ巻き」を販売。これらの収益金は、新たな特産品の開発に役立てています。

今後も、1人ひとりが生き生きと暮らせるまちを目ざし、″かっぱ″を生かしたまちづくりに地域住民一丸となって取り組んでいきます。

▲平成19年11月に、栖本のシンボルとなる日本一の「親子かっぱのモニュメント」を建立